



「Maybe, maybe」より 1971年

心の眼

稲越功一の写真

Mind's Eye
Photographs by Koichi Inakoshi

2009年8月20日[木] — 10月12日[月・祝]

会場 ■ 東京都写真美術館 地下1階展示室
開館時間 ■ 10:00~18:00 (木・金は20:00まで 入館は閉館の30分前)
休館日 ■ 毎週月曜日(但し9月21日(月)、22日(火)、23日(水)の連休中は開館)
観覧料 ■ 一般700(560)円 学生600(480)円 中高生・65歳以上500(400)円
()内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会
小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
第3水曜日は65歳以上無料

主催 ■ 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞
協賛 ■ (有)佐多宗二商店/(株)資生堂/(株)トーキョウ・グレート・ヴィジュアル/小学館「週刊ポスト」編集部/望月印刷(株)/(株)永昌源
協力 ■ キヤノン・マーケティング・ジャパン(株)/(株)フォト・ギャラリー・インターナショナル/求龍堂

東京都写真美術館



「Maybe, maybe」より 1971年



「Out of Season」より 1996年



「meet again」より 1973年



「芭蕉景」より 2009年



「記憶都市」より 1987年



「Ailleurs」より 1996年

心の眼

稲越功一の写真

Mind's Eye
Photographs by Koichi Inakoshi

稲越功一は、コマーシャル写真家として活躍を始めると同時に、自分自身のために写真を撮り始め写真集『Maybe, maybe』(1971)を刊行し、シリアス・フォトの写真家として注目を集めます。そのプライベートな眼差しで日常的な光景を切り取った写真表現は、時代の感性を表象するものとして当時の若者たちに影響を与え、その後の日本の写真に新たな水脈をもたらしました。その後もエディトリアル写真家やポートレイト写真家として多彩な活動を展開する一方、プライベートで純粋なスナップショットの眼差しで風景を撮影し続けます。写真集『記憶都市』(1987)『Out of Season』(1996)『Ailleurs』(1996)などを刊行して、揺るぎない評価を獲得します。本展覧会では、70年代初頭から注目されたスナップショットの眼差しの系譜を、日常的な光景をモノクロームでとらえた作品を中心にたどろうとするものです。そこには多彩な写真家稲越功一の原点があきらかにされるだけでなく、シリアス・フォトの眼差しがとらえた時代の風景、時代の感性の原点が見て取れるはずです。

関連書籍販売のお知らせ

展覧会の開催に関連して、担当学芸員の企画・監修による『Mind's Eye 心の眼—稲越功一の写真』を発売します。
当館のミュージアムショップ、全国の有名書店でお求めいただけます。

『Mind's Eye 心の眼—稲越功一の写真』
1971年、初作品集『Maybe, maybe』を刊行した版元によるシリアス・フォトグラファー稲越功一の生涯に渡る感性の源泉を伝える写真集。
求龍堂刊 定価2,940円(税込み)

■担当学芸員によるフロアレクチャー
第2・4金曜日 16:00—
※本展覧会半券(当日押印)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

■講演会「稲越功一を語る」
2009年10月4日(日) 14:00—16:00
宮崎皓一(写真家)×金子隆一(当館専門調査員)
会場=1階創作室
※当日10:00より本展覧会半券をお持ちの方に1階受付にて整理券を配布します。

【アクセス】
JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分。
東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。
お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。



東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL: 03-3280-0099 URL: <http://www.syabi.com>